

アメフトの魅力と素晴らしさを皆さんに知ってもらいたい



佐藤 玲 さん
(大竹2区 / 32歳)

秋田県内で初めてアメリカンフットボールクラブチーム「秋田ラムズ」を立ち上げた佐藤さん。県外のリーグ戦や交流戦などを行いながら、アメフトの素晴らしさや魅力を県内に広めようと活動を行っています。アメフトを通して、秋田の存在感を全国的に広げるため日々がんばっています。

高校時代は部活に入っていなかった私は、先輩や後輩の関わりが寂しいという思いがあり、また、精神的にも肉体的にももっと成長したいという思いから大学ではアメフト部に入りました。

アメフトは、全国的に小・中・高校と部活を通してやっている経験者というのはめったにないし、みんなが同じスタートラインから始められることが魅力的でした。

大学卒業後も東京でアメフトを続けていましたが、26歳のとき、イチジクを甘露煮などに加工している家業を継ぐために秋田に戻

てきました。

東京と違い、ゆったりと流れる時間が好きでしたが、普段の日常生活に何か物足りなさを感じていました。

大学でやっていたアメフトが秋田になかったため、防具をつけず、タックルをしない比較的安全な「タッチフットボール」のクラブに入ったのもこの頃でした。

しかし、「迫力」と「戦略」が醍醐味のアメリカンフットボールというスポーツを秋田県内に広めたいという思いから平成15年に仲間と秋田ラムズを設立しました。

今シーズンに秋田に2つ目のクラブチームが発足

発足当初15人ほどだった選手も、この3年で約40人にまで広がり、今シーズン末には、秋田ラムズに所属していた大学生が結束し、新チームを作り独立しました。



後輩たちの独立と秋田に2つ目となるクラブチームの設立に秋田ラムズの目標の一つは達成しました。今後、アメフトを通して秋田の存在感を広めるため、フットボール教室などを開きながら、子どもから大人までアメフトの魅力や素晴らしさを広めていきたいと思っています。

ぐんま ぐんま ぐんま

地区紹介

象潟地区 (象潟地域)



景勝の地 象潟



「象潟」は昔、その名のおり東西1km、南北5kmほどの入り江で、大小百いくつかの島々を浮かべ、水面には南にそびえる鳥海山が島の間を縫うように、その姿を映し出していました。

松島(宮城県)

と並ぶ景勝地として広く知られていました。しかし、文化元年(1804)6月4日、マグニチュード7.1(推定)の地震が象潟を襲い、海底が2.4mほど隆起。天下の名所は一夜にして消滅してしまいました。潟は失われたものの島々は今も水田の中に残り、4月下旬から5月上旬の田んぼに水を

張った時期には、島が水の中に浮かんでいるようになり、かつての八十八潟九十九島がよみがえります。

1200年の歴史をもつ 古刹・蛸満寺

蛸満寺は延暦年間(782~806)に、比叡山延暦寺の慈覚大師円仁が開山と伝えられる古刹。八十八潟九十九島の景色の要にありました。



1200年の歴史があり、古木に囲まれて、芭蕉句碑など数々の旧跡が残ります。松尾芭蕉が訪れたことで知られ、「おくのほそ道」が世に出ると、景勝地「象潟」はさらに有名になり、多くの文人墨客が訪れるようになります。

チビッコ美術館

じょうずにできた!



切り紙あそびをしたよ。おりがみを折ってから、好きな形を切りぬいて開くと、ゆきのけっしょうみたいなものができたよ。ほしのくみ(3歳児)のお友だちが作ったゆきだるまといっしょにかざったら、まどのそともゆきがおりてきたよ。

星城保育園
ゆきのくみ(年長)



ました。「旅客集」全11巻(伊留)には、江戸期から現代まで象潟を訪れた文人たちの和歌や俳句、漢詩などが書かれています。塩越(象潟地区)の町名主である金又左衛門家が保管し、明治37年に蛸満寺へ寄贈されています。

古くは港町として栄える

塩越は、本荘の古雪港とともに由利地域の二大良港で、上方からの下り荷や米などの品物を満載した船が多数入航し、活気にあふれていました。



当時、日本海で物資運搬のため使われていた船を北前船と呼び、その商品を取り扱うのが廻船問屋でした。塩越には7軒、古雪には10軒の廻船問屋が営業していたことから、往時の港の繁栄ぶりが想像できます。